

日本教育工学会 研究会 2019/10/19

コアカリキュラムに則した 科目「教育の方法と技術」の再設計

田中洋一@仁愛女子短期大学
熊本大学大学院 教授システム学専攻
you@jin-ai.ac.jp

保育の学びがみえる仁短
2018年度私立大学研究ブランディング事業

たながえる

仁愛女子短期大学
Jin Women's College

1

本研究の背景

- 中教審答申（平成27年12月21日）
「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について
～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」
教員養成に関する改革の具体的な方向性
- 教員職員免許法の改正（平成28年11月）
- 教員職員免許法施行規則の改正（平成29年11月）
- 新教職課程の開始（平成31年4月1日）

↓

- 教員養成課程における再課程認定（平成30年度中）
※本学・幼児教育学科（幼稚園教諭養成課程）
発表者担当科目「教育の方法と技術」の見直し

2

本研究の目的

- 福井県内保育者対象アンケート調査（国の回収率86%）
- 私立大学研究ブランディング事業
「保育者養成のためのキャリア・ルーブリックの開発
～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～」
第1部会「保育者に求められる資質・能力とその獲得に向けた
養成校における学習と評価」

↓

- 保育者養成校として何を学習成果とすべきか
- 保育の学びをどのように評価するか
- 短大におけるキャリア・ルーブリックをどのように作成するか

3

「教育の方法と技術」が準すべきコアカリキュラム

- 新教育課程における「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」のコアカリキュラム
- 全体目標：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、**教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用**に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
- 教育の内容：
 - ①教育の方法論、②教育の技術、③情報機器及び教材の活用

4

「教育の方法と技術」のリデザイン 授業目的と学習内容（元：2017年度）

本授業の目的は、幼稚園教諭として効果的・効率的・魅力的な教育を行うための方法と情報機器の活用方法を身につけることである。

- 障がい理解：コンセプトマップ、クリッカー
- シナリオを用いた情報倫理&情報セキュリティ・ワークショップ
- PowerPointで紙芝居
- 入園事前説明会
- ムービーメーカーを用いた
幼児向けCM作成：絵コンテ、スキャナー
- PowerPointを用いた視聴覚教材の作成、指導案

5

「教育の方法と技術」のリデザイン 授業の概要（修正：2018年度）

本授業の目的は、幼稚園教諭として幼児一人一人の特性に応じた**教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用方法**を身につけることである。

そのために、以下の3単元を学ぶ。

- (1) 教育目標にもとづき、教育課程、授業目標・評価・教育方法が設計されていることを理解した上、幼児教育学科の授業を批判的に分析し、ポスターツアーで議論する。
- (2) 8つの特色ある幼稚園（認定こども園）の**入園事前説明会**を行い、多様な教育理念や方法を学ぶ。
- (3) 幼稚園における視聴覚教育の**マイクロティーチング**を設計・実施・評価する。

6

「教育の方法と技術」のリデザイン 授業の到達目標（修正：2018年度）

- ① 幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、教育目標に合わせた教育方法及び評価を設計できる。
- ② 教育課程や指導計画等（年間計画・月案・週案・日案）を理解し、指導技術を批判的に分析できる。
- ③ 情報機器を活用した視聴覚教育の授業を設計・実施・評価できる。
- ④ 保育者として、自分の考えや行動を省察できる。

7

7

「教育の方法と技術」のリデザイン 授業設計のポイント(1) 残したアクティビティ

- ① 保育者を対象とした情報倫理＆情報セキュリティに関するシナリオを用いたワークショップ：
教員免許状更新講習にて好評＆幼児教育学科教員の希望
→本授業でも取り入れた
- ② 8つの特色ある幼稚園（認定こども園）の入園事前説明会：
1つのグループは、1つの園の教師として追体験し、ロールプレイ形式にて発表。他グループの学生は、保護者役として質問。
各園における特色は、シュタイナー、モンテッソーリ、レジオ・エミリア・アプローチ、森のようちえん、ヨコミネ式、英語、タブレット、放送番組の8つ。

8

8

「教育の方法と技術」のリデザイン 授業設計のポイント(2) 新しいアクティビティ①

- ・ 幼児教育学科の授業を批判的に分析した上でのポスターツアー
- ・ 本来は、幼稚園の教育課程や指導計画等（年間計画・月案・週案・日案）を分析することが望ましいのだが、園の協力を得ることが難しい
- ・ 本学のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをふまえ、1年前期に全員が履修する8つの授業科目に対して、グループごとに課題分析を行い、模造紙にまとめる。
- ・ セッションごとに1名の学生がポスター前に立ち、他グループの学生に対して説明するため、学生全員が責任を持つ。

9

9

「教育の方法と技術」のリデザイン 授業設計のポイント(2) 新しいアクティビティ②

- ・ 5歳児を対象とした視聴覚教育の設定保育（マイクロティーチング）の実施（6分程度）
- ・ 指導案の作成
- ・ 2018年度に学生が用いた道具：
クリッカーとPowerPoint、楽器、障子紙とプロジェクター、スマートフォンとルーレット・アプリなど

10

10

「教育の方法と技術」授業評価アンケート 年度別のカテゴリー平均と標準偏差

	学生	教員	総合	合計
2017 n=106	3.48 (0.55)	3.46 (0.54)	3.45 (0.56)	3.46 (0.55)
2018 n=98	3.62 (0.52)	3.68 (0.47)	3.62 (0.50)	3.65 (0.49)

平均値向上の理由は？ ➡

- ・ ICT活用頻度を減らしたこと
- ・ 課題を減らしたこと

11

11

科目「教育の方法と技術」再設計の効果

- ・ 授業評価アンケートの結果は向上
- ・ 2018年度のポスターツアーには、各クラスに1名ずつの幼児教育学科常勤教員（学科長、学科次長、学生相談室長）が参加。参加教員の感想は、「授業設計のねらいをほとんどの学生が理解していないことを痛感」。その意味で、本アクティビティは**学生によるFD**として機能。

12

12